

小学生用「がん教育リーフレット」活用例

日本人のがんによる死亡率は、昭和56年より死亡原因の第1位になっており、それ以降も増加傾向にあります。

国のがん対策基本法(平成19年4月施行)を受け、奈良県では、平成21年10月に「奈良県がん対策推進条例」が施行されました。その中に「奈良県がんと向き合う日は、10月10日とする。」や「がん教育の推進」が定められています。

奈良県では平成26年度より、がん教育を推進しており、小・中・高等学校における系統立てた取組の一環として、小学生に「がん」に対する興味・関心をもってもらうことを目的としています。

導入

10月10日と言えば「目の愛護デー」を思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか？
しかし、奈良県では独自に「ある日」として定めています。みなさんは何の日か分かりますか？

実は、奈良県では10月10日を「奈良県がんと向き合う日」と定めています。そこで、今日はがんという病気について考えてみます。

発問1 みなさんは、「がん」という病気に対して、どのようなイメージを持っていますか。

※<発言予想> 「死ぬ病気」「かかると治らない」「痛い病気」「こわい病気」等。

発問2 日本ではどれくらいの方ががんになると思いますか。

予想してみましよう。(リーフレットに予想した人数を書くように指示する。)

※児童が予想した人数を発表し合う。

解説1 日本人では、2人に1人ががんになり、4人に1人ががんで亡くなっています。

※がんは、日本人の死亡原因の第1位である。円グラフ「死亡原因の割合」を活用して、4人に1人ががんで亡くなっていることを児童と確認する。

解説2 がんの原因には、たばこやお酒などの生活習慣が関係している場合もありますが、よく分かっていないことが多く、誰でもなる可能性がある病気です。

解説3 このように、がんは誰でもなる可能性があります。グラフ「年齢別がんになる人の割合」を見ると、年齢があがるにつれて、少しずつがんになる人が増えていき、50歳前後から特に増えていることが分かります。

発問3 では、将来のがんを予防するためには、どんな方法があると思いますか。

※<発言予想> 「規則正しい生活をする」「よく寝る」「たばこを吸わない」等。

解説4 がんやその他の病気にならないためには、よい生活習慣が大切です。
よい生活習慣とは、好き嫌いをせずバランスよく食べること、適度に運動すること、しっかり眠ること、などをいいます。
いくつかのがんは、よい生活習慣によってなる可能性が低くなります。

※リーフレット(裏面)を見ながら、よい生活習慣についての説明を行う。

解説5 たばこを吸わないことは生活習慣病予防につながり、肺をはじめ全身の様々ながんを引き起こす可能性が低くなります。

※がんになる確率は、喫煙者は非喫煙者に比べて、男性は1.5倍、女性は1.6倍であることにもふれる。

解説6 がんの中には、早い段階で見つけることができれば9割以上が治るものがあります。
しかし、早期のがんでは痛みなどの症状が出にくいいため、早く発見することが大切です。がんを早く見つけるためには、「がん検診」が必要です。「がん検診」では、肺や胃など体のそれぞれの場所に応じた検査により、自分では気づかない小さな異常を見つけることができます。何の症状がなくてもお医者さんに診てもらうことが大切です。

まとめ がんについて、こわい病気・治らない病気だと思っているかも知れませんが、検診を受け、がんを早く見つけて治療すれば治る確率が高くなると言われています。また、よい生活習慣は、大人になって、がんやその他の病気になる可能性を低くします。
これからも、健康や命の大切さについて考え、出来ることを実践していきましょう。

参考 家族や身近な人をがんで亡くしたり、闘病中の方がいる場合の対応等について

- がん教育を実施する前に、本人や保護者と学習内容について相談し、場合によっては、その時間を別室で過ごせるように配慮するなど、気持ちに寄り添って対応する。
- 成人のがんの原因は生活習慣病が関わっていることがあるが、その原因については明らかになっていないことが多い。そのため、「がんにかかる」=(イコール)「生活習慣が悪い」という捉え方にならるように注意する。
- 「がんは日本人にとって身近な病気であり、誰にでもかかる可能性があるが、早期発見・早期治療を行うことで治ることが多い病気である。そのため、大人になった時にがん検診を受けることや、身近な人にがん検診を勧めることが大切である。」という主旨から外れないようにする。